

伊方町合併20周年

記念式典開催



平成十七年四月一日、
佐田岬半島の伊方町、瀬戸町、三崎町が
ひとつになり、新しい伊方町が誕生しました。

あれから二十年
この町には、今も変わらず豊かな自然と、
その中で、人と人との繋がりが
美しい風景があり、
育まれてきました。

町を支える産業、守り継がれてきた伝統、
地域を盛り上げる行事、

そして、子供たちの元気な声。

その全てが、伊方町の大切な歩みです。

二十年という歳月の中で、
伊方町は協力して苦難を乗り越え、

多くの笑顔と思い出を積み重ねてきました。

「ふるさと」を愛する心、支え合う力。

それが未来へつなぐ希望であり、
この町の宝物です。

平成17年4月1日に旧伊方町・瀬戸町・三崎町が合併してから、20周年を迎えました。

町では、11月3日（月・祝）に伊方町民会館で「伊方町合併20周年記念式典」を開催し、来賓を含む約300人が参加し、20周年の節目を祝いました。

開幕は伊方堂々太鼓と伊方堂々太鼓ジュニアによる和太鼓演奏で華やかに始まりました。その響きは会場を一体化させ、参列者を式典の場へと導きました。

式典では高門町長の式辞と福島町議会議長のあいさつが執り行われ、その後、町の発展に多方面で顕著な貢献をした方々へ町政功労者表彰が贈られました。受賞者を代表して都築敏男氏が謝辞を述べ、受賞された方々に対しまして、場内には温かな拍手と今後への期待が広がりました。来賓からの祝辞も式典をさらに彩りました。

式典と同時開催された名誉町民証授与式では、本町大久で生まれ、2014年にLED開発でノーベル物理学賞を受賞した中村修二博士（現カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授）に、高門町長から名誉町民証が授与されました。

授与後、中村博士は故郷への思いと受賞の喜びを語られました。中村博士の受賞は、科学技術の力が故郷の発展につながる象徴となりました。

式の締めくくりとして、20年間の歩みを記録した記念ビデオを上映しました。合併以降の道のりを振り返り、これから新たな挑戦へ向けた希望と決意を共有する機会となりました。

この式典を通じて、過去の歩みを讃えるとともに、地域社会の一層の発展に向けて、協働と創意工夫を一層推し進める決意を新たにしました。

今後も町民とともに、誇りあるまちづくりを着実に進めてまいります。

伊方町長式辞（抜粋）

本町は、20年前の平成17年4月1日に、地方分権の推進と「平成の大合併」という大きな変革の流れの中、「日本一細長い 佐田岬半島」の伊方町・瀬戸町・三崎町の3つの町が、長期的な展望に立った地域発展を推進するため、合併という道を選択し、現在の新しい伊方町が発足いたしました。

10年前の6月14日に合併10周年記念式典が挙行されましたが、以来、再び10年の年月を積み重ね、20周年を迎えたことは、皆様方から格別のご努力ご尽力を頂いたおかげだと、心から感じております。

合併10年から20年の間の本町の主な取り組みや出来事を顧みると、平成28年7月、伊方町のイメージキャラクター「サダンディー」が誕生し、現在は、「チビダンディー」と共に各種イベントなどを盛り上げてくれています。平成29年10月には、「えがお つなぐ 愛媛国体」が開催され、本町では伊方スポーツセンターにおいて、成年女子バレーの競技があり、皇族からは当時の秋篠宮家ご長女であります眞子様がご来町され、町民と親しく交流されました。平成30年5月、三崎高校に公営塾「未咲輝塾」を開設、令和3年4月には、町営寄宿舎「未咲輝寮」を開所いたしました。同年8月、亀ヶ池温泉本館が落雷が原因と思われる火災により焼失致しましたが、令和4年3月、仮営業を開始し、令和6年2月には関係各位のご努力により、リニューアルオープンを果たす事ができました。

また、町の基幹産業である農業・漁業の振興に関しましては、その活性化を町政の重要課題として位置付け、第一次産業の所得向上と後継者の確保対策に積極的に取り組み、新規就業支援をはじめ機械器具整備などの、様々な補助メニューにより、就業者を一人でも多く確保できるよう、財政支援に取り組んで参りました。

更に防災・安全対策に関しましては、昨年8月、南海トラフ地震臨時情報が発表され、その後、巨大地震の発生確率が見直されたことにより、太平洋沿岸の市町においては津波に対する対策が急務となっております。町内の各集落においても、高台への避難路の整備や一時避難場所の確保、さらには有事の際に活用するヘリポートの建設を進め、また、万が一の孤立対策に備え、冷凍庫や蓄電池等の購入補助制度を創設致しました。

また、ご案内のとおり、我が国は、人口減少社会に突入しています。本町の人口は、現在7,540人（令和7年9月末現在）ですが、今後も更に減少すると推計されています。町政の最大の課題は、人口減少対策であり、何らかの対策を講じなければ国や県の推計どおりに急激な人口減少が進むおそれがあります。町としてはこの人口減少のカーブをいかに緩やかにするかを最大目標として、企業誘致や移住定住、二地域居住の推進、若者の就業、結婚・子育て対策等、考え得るあらゆる施策に積極的に取り組んで参ります。

また、町内全体の経済成長を促進するためには、新たな産業の創造、雇用の創出、観光資源の有効活用等、改めて、伊方町の地域資源を活かしたまちづくりに取り組む必要があると考えます。

町民の皆様には、引き続き積極的に「まちづくり・地域おこし」にご参画をいただき、町政の発展をご理解ご協力をお願い申し上げる次第でございます。

結びに、これからも末永く伊方町の繁栄が続いて参りますよう、町民の皆様、国、県を始め、関係各位の皆様、ご来賓の皆様には、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日、ご臨席を頂きました皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

伊方町長 高門清彦

伊方町議会議長あいさつ（抜粋）

平成17年4月1日に、佐田岬半島の小さな町、伊方町、瀬戸町、三崎町が合併し、「新伊方町」が誕生いたしました。これまでの20年間は、社会・経済情勢の各般にわたって、大きな変化のあった時代がありました。なかでも、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、新たな生活様式への移行やDXの推進など町民生活にも大きな変化を与えるました。

人口減少、少子高齢化の波も押し寄せる中、「伊方町」は、「輝く人々、豊かな自然、よろこびの風薫るまち伊方」を、まちの将来像に掲げ、地域間の格差の是正、そして、新町の一体感の醸成を重要課題として、主要事業に取り組み、町の発展と町民の福祉向上に努めて参りました。

また、健全な財政運営の基、地域の実情に即応した事業を展開し、町が抱える課題の解決に向け積極的に取り組んできたところあります。このことは、歴代町長のリーダーシップと、なによりも町民の皆様、関係各位のご理解とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

議会におきましても、町民の皆様方が、心豊かに安全で安心して幸せな日々の生活が送れることを第一として、政策や財政運営が適正に執行されているかなど、町民の立場に立ち、議会としての本分を全うしながら、行政と共に新しいまちづくりを進めて参りました。

日本は、デジタル化、国際化など、今も急速に変化しており、本町においても各種施策の一層の充実が求められています。町民一人ひとりが安心して暮らすことのできるまち、次世代を担う子どもたちが誇れるまちとして、引き継いでいかなければなりません。

議会といましても、二元代表制の一翼を担い、伊方町のまちづくりを推進していく必要があります。議員一同、伊方町のより一層の発展のため、町民の皆様の負託にこたえるべく研鑽を重ね、地域の皆様方の声をしっかりと聴き、町民と行政、そして、議会が一体となって、町を活性化するための施策を創造し、笑顔が絶えない明るく元気な伊方町を築いていくことに全力で取り組んで参ります。

今後とも、皆様方のより一層のご支援ご協力を願い申し上げます。

結びに、本日ご出席いただきました皆様、すべての町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

伊方町議会議長 福島 大朝



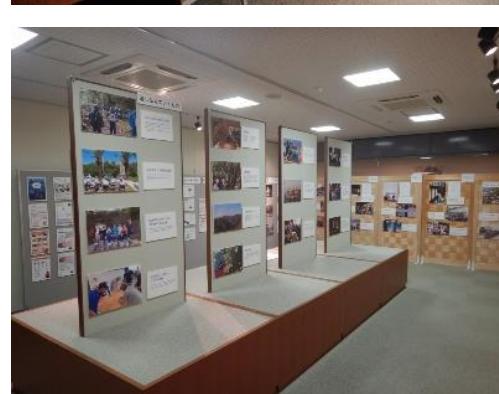
オープニングセレモニーにて、曲「海風」を披露。
伊方堂々太鼓・伊方堂々太鼓ジュニアによる和太鼓演奏で、会場を華やかな一体感に包みました。



町政功労受賞者（地方自治功労・社会福祉功労・消防功労・教育文化功労・産業建設功労）の皆様に会場から温かい拍手が贈られました。



伊方町名譽町民の称号が贈られた中村修二博士。
あいさつでは、故郷への思いや、現在取り組んでいる研究の話などをし、会場を沸かせていました。



11月3日～12月10日まで
伊方町生涯学習センター
4階において、「伊方町
合併20年のあゆみパネル
展」を開催しました。

合併20年のあゆみ



合併記念式典（平成17年11月6日）
新「伊方町」合併記念式典が開催され、姉妹都市提携をしている米国レッド・ウィング市から8名の来町者をはじめ、町内外から招待者約400名の中度者がありました。



伊方町デマンド交通運行開始（平成20年4月1日）

伊方町マイクロ交通運行開始（1月20日午後1時）
町民の利便性向上に公共交通機関が果たす役割は大変大きいことから、伊方町でもデマンドバス「ふれあい号」の運行が始まりました。



全国消防操法大会出場（平成24年10月7日）

東京都で第23回全国消防操法大会が開催され、愛媛県代表として、伊方町消防団第9分団1部（大久）がボンズ車の部に準優勝しました。

27年度	亀ヶ池温泉簡易宿泊施設オープン 伊方町観光交流拠点施設 「佐田岬はなはな」オープン
28年度	二見出張所・四ツ浜出張所廃止 愛媛県オフサイトセンター、西予市に移転 道の駅「伊方きらら館」リニューアルオープン 伊方町イメージキャラクター「サダンディー」誕生 川之浜保育所閉所 三崎保育所新築移転
29年度	佐田岬灯台有形文化財登録 伊方町学校給食センター完成、稼働開始 愛顔（えがお）つなぐえひめ国体 チビダンディーデビュー 加周保育所閉所
30年度	佐田岬灯台点灯100周年 三崎高校に公営塾「未咲輝塾」開設 平成30年7月豪雨 水ヶ浦小学校閉校（伊方小学校に統合）
31年度	亀ヶ池温泉利用者200万人
令和	
元年度	地域巡回バス運行開始 (1日。デマンド交通廃止、スクールバスを活用) 「関東伊方ふるさと会」創立記念交流会（東京築地
2年度	新型コロナウイルス感染症拡大、 全国に緊急事態宣言
3年度	観光交流拠点施設 「佐田岬はなはな」リニューアルオープン いかた学童クラブ移転新築
4年度	三崎高校町営宿舎「未咲輝寮」開所 東京2020オリンピック聖火リレー開催 地域振興センター内にサテライトオフィス開設 観光交流施設「亀ヶ池温泉」、落雷により本館焼失 一般社団法人「佐田岬観光公社」設立 亀ヶ池温泉仮営業開始（入浴、宿泊サービス）
5年度	文化交流施設「佐田岬半島ミュージアム」開館 三崎支所内にIT企業サテライトオフィス開設 サダンディー、ゆるバースで全国4位 ねんりんピック愛顔のえひめ2023大会、 サイクリング交流大会開催
6年度	旧水ヶ浦小学校校舎内にコールセンター開設 障がい者グループホーム「陽だまり伊方」開所 「グループホームゆうゆう伊方」開所 在宅高齢者共同生活支援施設 大浜保育所閉所式



伊方浄化センター通水式（平成18年5月1日）

大浜地区で伊方浄化センターの竣工・通水式が行われ、住環境の向上と自然環境の保護につながる公共下水道事業が始まりました。



伊方ウインドファーム起工式（平成19年5月13日）

「きらら館」東に12基の風車建設のため、起工式が行われました。一般家庭約1万世帯の年間消費量に相当する発電量が見込まれています。



「メロディー道路」完成（平成23年2月25日）

自動車で走ると「みかんの花咲く丘」のメロディーが聞こえる道路が完成しました。メロディー道路が四国にできたのは初めてでした。



佐田岬クオーターマラソン大会開催（平成23年11月6日）

第1回佐田岬クオーターマラソン大会が開催され、遠方は愛知県名古屋市や広島県他県内外から多くのランナーが集まり、盛大に実施されました。



子育て支援広場開設（平成26年10月3日）

家庭で育児をしている保護者とその子どもが広場で交流を深め、育児に関する相談をするために子育て支援広場（スマイルルーム）を開設しました。



亀ヶ池温泉簡易宿泊施設オープン（平成27年4月25日）

亀ヶ池温泉に簡易宿泊施設がオープンし、より多くの方が利用しやすい施設になりました。

26 年度	25 年度	24 年度	23 年度	22 年度	21 年度	20 年度	19 年度	18 年度	17 年度
佐見小学校閉校（九町小学校に統合）	中村修二氏町民栄誉賞授賞式、記念碑除幕式	佐田岬小学校閉校（三崎小学校に統合）	二名津保育所閉所	伊方町消防団（大久分団1部）	亀ヶ池温泉利用者100万人	東日本大震災被災地への復興支援	伊方町リサイクルセンター運用開始	伊方町農業支援センター設立	新伊方町発足、新伊方町庁舎開庁式

レッド・ウイングス市友好使節団来町
(瀬戸アグリトピア・佐田岬はなはな)

非常用持ち出し袋全戸配布開始
レンタサイクリング事業開始

子育て交流広場「スマイルルーム」開設

中村修二氏町民栄誉賞授賞式、記念碑除幕式

伊方町リサイクルセンター運用開始

一般廃棄物最終処分場建設

二名津小学校閉校（三崎小学校に統合）

塩成保育所閉所

第一回佐田岬クオーターマラソン大会開催

国道197号に「メロディー道路」完成

（瀬戸農業公園前）

伊方町総合防災訓練（以降毎年実施）	伊方町結婚支援事業開始	伊方町農業支援センター設立	伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」開業	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成
伊方町総合防災訓練（以降毎年実施）	伊方町結婚支援事業開始	伊方町農業支援センター設立	伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」開業	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成
伊方町総合防災訓練（以降毎年実施）	伊方町結婚支援事業開始	伊方町農業支援センター設立	伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」開業	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成
伊方町総合防災訓練（以降毎年実施）	伊方町結婚支援事業開始	伊方町農業支援センター設立	伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」開業	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成
伊方町総合防災訓練（以降毎年実施）	伊方町結婚支援事業開始	伊方町農業支援センター設立	伊方町健康交流施設「亀ヶ池温泉」開業	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成	伊方町生涯学習センター完成

主な出来事
平成



サダンディー誕生（平成28年7月31日）

新たな魅力発信と情報発信力の更なる強化を目的に、伊方町イメージキャラクターのサダンディーが誕生し、きなはいや伊方まつりで発表されました。



眞子内親王殿下伊方町訪問（平成29年10月7日）

眞子内親王殿下が、えひめ国体伊方町開催競技のご視察で本町を訪問されました。沿道には、眞子内親王殿下をお出迎えしようと、多くの町民が詰め掛けました。



佐田岬はなはなリニューアルオープン（令和2年5月30日）

リニューアルでは、レストランやカフェが新たに設けられ、特産品を扱う物産スペースも拡充されました。建物内外には、佐田岬の文化である「石垣」が随所に取り入れられています。



未咲輝寮開所（令和3年4月1日）

三崎高校の町営寄宿舎である未咲輝寮が開所されました。寄宿舎は、Wi-Fi環境やエアコンが完備されており、男女40人が生活を開始しました。



サダpay運用開始（令和6年5月1日）

伊方町デジタル商品券「サダpay」の運用が開始しました。顔認証の登録を行った町民の方は、顔のみで買い物ができるようになりました。

のこ 遺し伝えていくもの

四国の西端で約40キロに渡って細長く伸びる佐田岬半島。独特的の地形、気候風土、豊かな自然、点在する各集落で培われた文化や暮らしが、ここで代々暮らしてきた私達の先祖から受け継いだ宝物です。



佐田岬半島のヤマザクラ

知る人ぞ知る佐田岬半島の春の風物詩。

新緑に先駆けてポツポツと山並みに浮かび上がる無数のヤマザクラ。植林が少ない佐田岬半島の森林ならではの自生のサクラで、海岸線が蛇行する地形で山が近くに見え、思わず車を停めて見惚れてしまう景観がどこまでも続きます。



みかん農家

伊方町の基幹産業であるみかん栽培。太陽と海と石垣に照り返される3つの光と、たっぷりの潮風をうけて、佐田岬半島で育った美味しいみかんが全国各地に発送されています。時間をかけて木を育て、互いに協力しながら美味しいみかんを作れるみかんのプロたちがこの町にはたくさんいます。



三崎高校に公営塾開設（平成30年5月1日）

公営塾の開講を目前に控え、新たな地域おこし協力隊を任命しました。公営塾の講師として三崎高校の生徒たちの夢の実現をサポートしていきます。



地域巡回バス運行開始（令和元年10月1日）

利用者数が増加しなかったデマンド交通の利用状況や伊予鉄南予バス路線の廃止に対応するため、町内全体を決められたダイヤで巡回するバスの運行が開始されました。



Digi田甲子園 全国9位（令和4年9月2日）

全国のデジタル技術を活用した取組を募集し、特に優れたものを表彰する「夏のDigi田(デジデン)甲子園」が開催され、伊方町の取り組みがアイデア部門の全国9位に選ばれました。



佐田岬半島ミュージアムオープン（令和5年8月5日）

伊方町文化交流施設「佐田岬半島ミュージアム」がオープンしました。

オープニングセレモニーでは、高門町長の挨拶の後、ご来賓の挨拶、メッセージや祝電の披露、感謝状贈呈、寄贈品や人物コーナーの展示資料紹介などがおこなわれました。



平和学習（豊予要塞第二砲台跡）

佐田岬半島岬端部と大分県佐賀県の一部に豊予要塞が設置され、正野地区には当時の施設がいくつか現存しています。

第二砲台は1927（昭和2）年に設置されました。今も当時の迷彩跡が鮮やかに残っています。町内学校の平和学習では、戦争関連遺産を訪れ、戦争や平和について学び、考えています。



佐田岬みつけ隊による資料整理・調査活動

佐田岬半島ミュージアムサポーターである「佐田岬みつけ隊」には、多様なメンバーが在籍し、いろんな角度から佐田岬半島を楽しんでいます。町内に残された資料の整理活動等も行っています。



三崎の実盛様

毎年旧暦5月16日に行われます。実盛様と呼ばれる人形が集落内をまわり、地域の人たちは実盛様が乗った船の下をくぐり、ペントーなどと呼ばれるおにぎりを受け取ります。

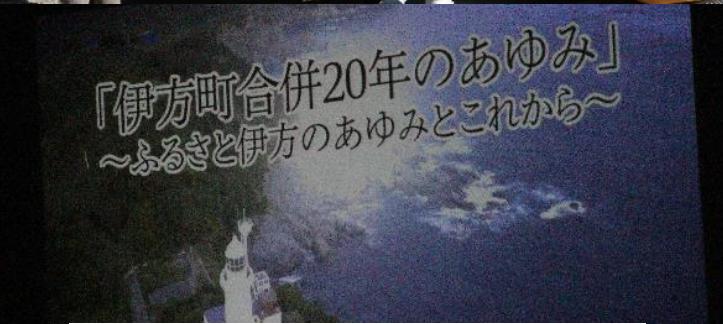
「三崎→高浦→佐田→大佐田→井野浦」の順にリレーのように送り、最後は海に流します。三崎の他、九町でも行われています。



九軍神慰靈祭

太平洋戦争開戦の昭和16年12月8日、ハワイ真珠湾攻撃で特殊潜航艇に乗り込み、湾内の米艦隊に攻撃を行い戦死した「九軍神」は、昭和14年頃から三机湾で訓練を行いました。

慰靈碑が建立される前までは、須賀の浜の忠靈塔前に集まり、九軍神を偲ぶ会を開いていました。昭和41年8月佐藤栄作総理（当時）直筆の「大東亜戦争九軍神慰靈碑」が須賀公園に建立されたのを機に三机青年団は、12月8日の命日には慰靈祭を行っており、現在も平和を願う若者たちに引き継がれています。



記念ビデオ
「伊方町合併20年のあゆみ」
～ふるさと伊方のあゆみとこれから～
<https://youtu.be/nhQBtU1yd2s>
上記QRコードよりご視聴ください。

伊方町のあゆみ

遺し伝えていくもの

イベントの遷り変わり

未来への取り組み

これからのあゆみ

